



長野県林業総合センター - 塩尻市片丘 5739
 Nagano-prefectural Forestry Research Center
 TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

ニセアカシア

キ-ワ-ド:ニセアカシア、根系

「ニセアカシア（ハリエンジュ）」は、治山樹種として知られますが、養蜂業者にとっては蜂蜜の採取源であり、また最近フロ-リング材料としても注目されています。県内各地で見られ、その繁殖力の強さのため「ニセアカシアを退治したいが方法は？」という質問も寄せられます。ここでは、ニセアカシアの由来と現状の一例を紹介します。

1 ニセアカシア

ニセアカシア(*Robinia pseudo-acacia*)は、北アメリカ東部原産です。庭園緑化木として17世紀にフランスへ渡り、ヨーロッパ全土へ普及しました。栄養分の無い土壌でも良好に生育し、根粒バクテリアによる地力改善の効果があることが判明したことで、18世紀からは荒廃地の緑化樹として大規模に使われるようになりました。現在ではユーカリ、ポプラに次いで、世界で3番目に普及している樹木として知られています。

ニセアカシアが日本にやってきたのは明治6年(1873年)で、最初は公園緑化樹として植栽されましたが、明治の中頃から荒廃地緑化にも使われはじめました。明治18年から始まった松本市の牛伏川砂防工事では、右の写真のような荒廃地の緑化工事にニセアカシアが植栽された記録が残っています。



明治44年の牛伏川源流日影沢(牛伏川砂防工事沿革史(四)より)

2 根返り倒伏

ニセアカシアの根系は、柔軟なロープ状で、地表近くを遠くまで横走りしており、土壌の緊縛力は大きいと考えられています。

ところがニセアカシアの根系は30年生程度になると活力が低下し、腐朽したり、もろくなってしまいます。

その結果、台風や冠雪などにより、「根返り」して倒れるものが多発し、倒れるときに地面に大きな穴を開けてしまうため、山腹崩壊のきっかけを作ることにもなります。



3 林相転換（植生遷移の促進）

ニセアカシアが倒伏することで、ニセアカシア林に他樹種が侵入するチャンスが訪れます。

しかし、ニセアカシア林を歩いてみると、畑地や路傍で見られるような植物だけがわずかに認められるだけで、通常の山林内に普通に生育している植物があまり認められません。

この原因は、ニセアカシアがもっているアレロパシー*が原因ではないかと考えられ、ニセアカシアが倒伏しても他の樹種が侵入定着することが困難で、土壌中に残された種子や根からの萌芽などによりニセアカシア林が再生してしまいます。

このため初期緑化樹種のニセアカシア林から、より安定した他の森林に遷移させていくことが困難となり、日本ばかりか世界各地で問題になっています。

先ほど紹介した牛伏川流域では、荒廃地緑化工時に植栽した苗木のわずか3%を占めていたに過ぎなかったニセアカシアが1976年には全山を被っており、そのニセアカシア林が他の森林に変化せずにいる現状が明らかになりました。そこで、ニセアカシア林を在来広葉樹が優占する安定した森林へと遷移させるために、1992年から林相転換事業が行われています。なお、この事業ではニセアカシアを伐採し根株を掘り取ってから、ナラ類などの広葉樹苗木を植栽するという方法をとっています。

ニセアカシアは山地砂防の初期緑化樹種として極めて高い効果を発揮してきましたが、在来種による森林に変化させる段階で非常に大きな問題を持っていることは明らかです。今後ニセアカシアを初期緑化樹種として採用する場合は十分な検討がなされる必要があります。

林相転換のための施業法については、また稿を改めて紹介したいと思います。

* アレロパシ - : 他感作用 ... 化学物質などによる、他の植物に対する成長阻害作用。

(参考) ニセアカシアとタケの枯らし方(ミニ技術情報 NO.9)

担当者 育林部 小山泰弘